

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【石井北小学校】

<第6学年：ちがいて、何？>

生まれや環境、ジェンダーやセクシャリティに関わらず、一人一人の違いが認められ、誰もが自己の能力を十分に発揮できるジェンダー平等を実現する社会を作るために自分に何ができるかを考えることをねらいとして授業に取り組んだ。

まず、日本のジェンダーギャップ指数について知った。子どもたちは、男女の違いをあまり感じずに生活していることもあり、世界の中で日本の指数がかなり低いことに驚いていた。指数が低い理由や今後どのような社会を目指していくべきか、子どもたちなりに考えることができた。

講師に菊池準子先生をお迎えして、「自分らしく幸せに生きる権利」について考える授業を行った。「いのち=からだ」であり、誰もが、自分のからだに誰がどこに触れることができるのかを決める権利を持っていることを学び、自分も相手も大切に生きていきたいという気持ちを持った。



<第4学年：共に生きる>

障がいのある人々やボランティアとして支えている人々と触れ合う体験活動を通して、その人たちの思いや願いを理解し、「共に生きる」とは、どういうことか考え、自分にできることを実践していこうとすることをねらいとして授業に取り組んだ。

障がいや障がいのある人について、図書館の本やインターネットを活用して調べ、ゲストティーチャーをお迎えして、手話体験、ガイドヘルプ、点字体験、高齢者類似体験を実施した。「アイマスクを着用して歩いてみると、怖さはなかったけれど階段の段差にぶつかってけがをしないようにするのが難しかった。いろいろな人と共に生きるという大切さが少しずつ分かった。」「点字を覚えるのが楽しくなった。」「これまでよりも優しくできる。」「画数が多い漢字は見えにくいから平仮名でお礼状を書いた。」など、体験を通して、高齢者や障がいがある方の身体の不自由さや気持ちを理解し、サポートの大切さを学ぶことができた。

